

## 第2章 八幡浜市の地域特性

## 自然環境

## (1) 位置・地形・地域の状況

八幡浜市は、愛媛県の西部、佐田岬半島の基部に位置しています。総面積は133.03 km<sup>2</sup>で、北は瀬戸内海に面し、西に宇和海を臨み、豊後水道を挟んで九州と対しています。

海岸線はリアス式海岸を形成しており、急斜面が海岸までせり出した地形で平地が少なく、岬と入り江が交錯した風光明媚な景観をなしています。

古くから沖合・沿岸漁業が盛んで穏やかな漁場は養殖業にも適しており、西日本有数の天然魚の水揚げを誇る八幡浜漁港と、四国の西の玄関口といわれ九州と四国を結ぶ海上交通の要衝であり年間40万人近くが利用する八幡浜港を抱えています。

また、日本一の品質を誇る温州みかんは、温暖な気候とさわやかな潮風のなか、空・海・地からの反射による3つの太陽の光を浴び、先人たちの努力により育まれてきました。秋になると黄金色に輝く段々畑の山腹は、将来に渡り残していきたい八幡浜市の風景の一つです。



## (2) 気象

### (1) 気温

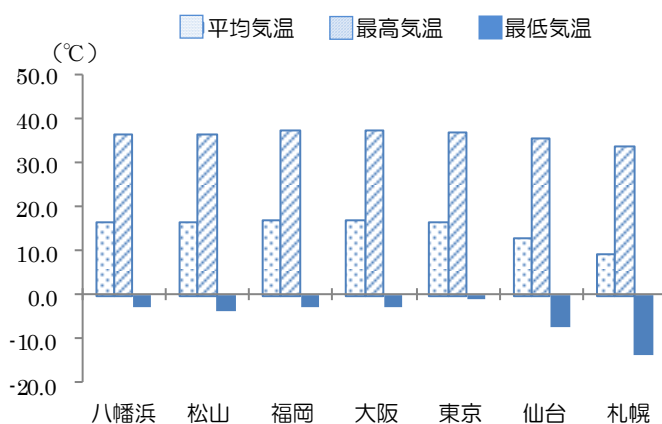
八幡浜市の気候は、瀬戸内海と宇和海の2つの海に臨み、温暖な海洋性気候が中心ですが、東部や山間部では、内陸性気候の影響を受けています。

八幡浜市の平成20年から平成24年までの平均気温は16.6℃、最高気温は36.7℃、最低気温は-2.7℃であり、県内外の都市と比べても温暖で暮らしやすい気候であると言えます。

平均気温の比較(H20～H24)

	平均気温	最高気温	最低気温
八幡浜	16.6	36.7	-2.7
松山	16.7	36.5	-3.5
福岡	17.2	37.5	-2.9
大阪	17.0	37.4	-2.9
東京	16.6	37.2	-1.1
仙台	12.9	35.5	-7.4
札幌	9.5	34.1	-13.5

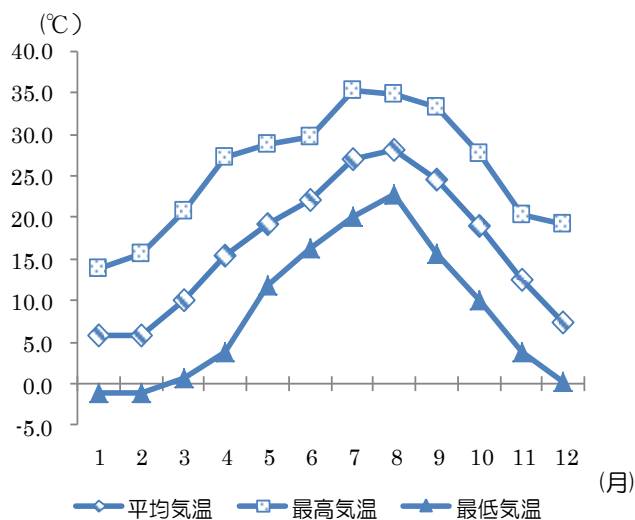
資料 気象庁ホームページ  
八幡浜消防署



八幡浜市の月別平均気温 (H24)

	平均気温	最高気温	最低気温
1月	5.8	13.8	-1.0
2月	5.8	15.6	-1.2
3月	10.0	20.8	0.6
4月	15.5	27.3	3.7
5月	19.1	28.7	11.8
6月	22.2	29.7	16.2
7月	27.1	35.2	20.0
8月	28.1	34.7	22.7
9月	24.5	33.2	15.6
10月	18.9	27.6	10.0
11月	12.5	20.2	3.8
12月	7.4	19.2	0.2

資料 八幡浜消防署

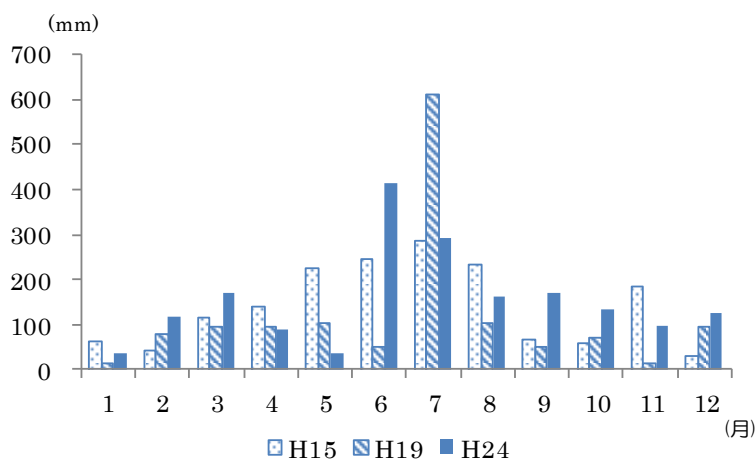


(2)降水量

八幡浜市の平成15年から平成24年までの10年間の年間平均降水量は、1,650mmとなっています。しかし、年によって変動があり、台風などの影響と考えられます。

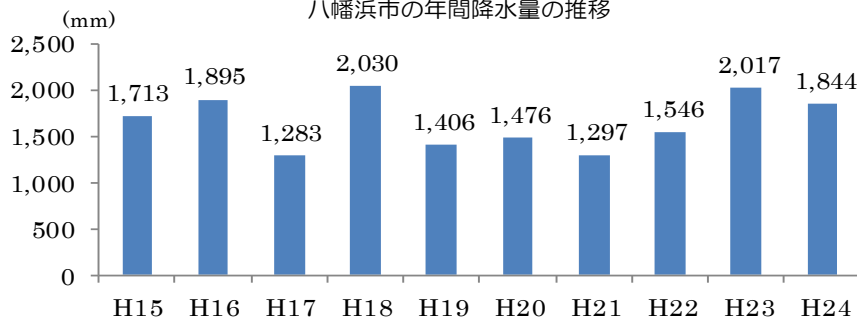
八幡浜市の月別降水量の推移（H15・H19・H24）

降水量 (mm)			
月/年	H15	H19	H24
1	63.0	16.0	36.0
2	45.0	79.0	116.0
3	116.0	95.0	170.5
4	143.0	96.0	90.0
5	227.0	105.0	36.5
6	248.0	54.0	415.0
7	289.0	614.0	291.5
8	235.0	106.0	161.5
9	69.0	53.0	171.0
10	62.0	74.0	133.5
11	186.0	17.0	96.5
12	30.0	97.0	126.0
合計	1,713.0	1,406.0	1,844.0



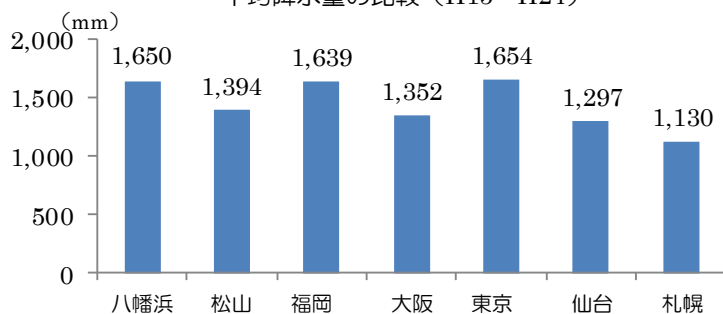
資料 気象庁ホームページ

八幡浜市の年間降水量の推移



資料 気象庁ホームページ

平均降水量の比較（H15～H24）



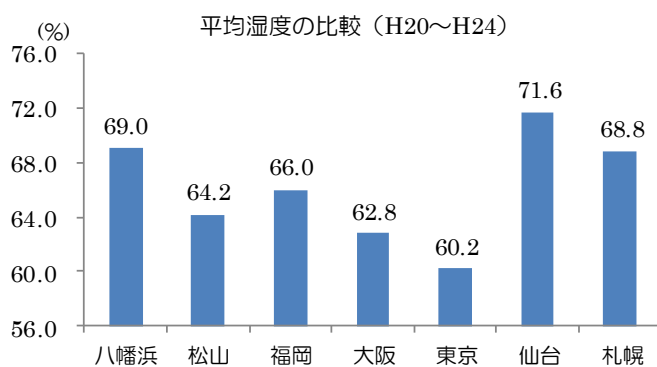
資料 気象庁ホームページ

### (3)湿度

八幡浜市の平成 20 年～平成 24 年の平均湿度は、69.1%であり、他の都市に比べて比較的湿度が高い傾向にあります。

	(%)						
	八幡浜	松山	福岡	大阪	東京	仙台	札幌
H20	68.8	66.0	66.0	63.0	60.0	73.0	68.0
H21	69.6	63.0	64.0	63.0	60.0	71.0	68.0
H22	69.3	62.0	65.0	62.0	61.0	72.0	69.0
H23	68.0	62.0	68.0	63.0	58.0	70.0	69.0
H24	69.4	68.0	67.0	63.0	62.0	72.0	70.0
平均	69.0	64.2	66.0	62.8	60.2	71.6	68.8

資料 気象庁ホームページ  
八幡浜消防署

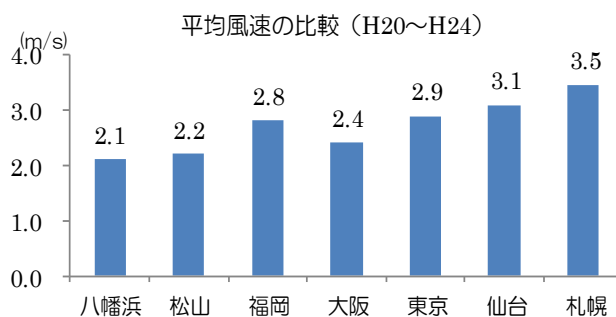


### (4)風況

八幡浜市の平成 20 年～平成 24 年の平均風速は、2.1m/s であり、比較的風の穏やかな地域です。

	(m/s)						
	八幡浜	松山	福岡	大阪	東京	仙台	札幌
H20	2.1	2.2	2.6	2.3	2.8	3.0	3.5
H21	2.1	2.2	2.6	2.3	2.9	3.1	3.6
H22	2.2	2.2	2.9	2.5	2.9	3.0	3.4
H23	2.1	2.2	3.0	2.5	2.9	3.2	3.3
H24	2.1	2.2	3.0	2.5	3.0	3.2	3.5
平均	2.1	2.2	2.8	2.4	2.9	3.1	3.5

資料 気象庁ホームページ  
八幡浜消防署



(3) 動植と植物

八幡浜市には、貴重な動植物群が多様に生息しています。これらのうち愛媛県のレッドデータブック（絶滅のおそれがある野生生物をリスト化したデータブック）に選定されている絶滅危惧種、準絶滅危惧種として以下のようなものがあげられます。

今後は、これらの生物の生息地となる海・山・川などの保全を図るなかで、貴重な動植物の保護を推進していくとともに、身近な生物とのふれあいを通じて心豊かな市民性を育てていく必要があります。また、イノシシなどによる農作物への被害が増加しており、これらの生物と共存していくための対策を考えていく必要があります。

八幡浜市の主要な貴重動植物

区分	名称	分類	愛媛県カテゴリー
動物	ウラナミジャンメ	ジャンメチョウ科	絶滅危惧1類 (CR+EN)
	メダカ	メダカ科	絶滅危惧2類 (VU)
	アカウミガメ	ウミガメ科	絶滅危惧2類 (VU)
	ドジョウ	ドジョウ科	準絶滅危惧 (NT)
	ヒメヤマトオサガニ	スナガニ科	準絶滅危惧 (NT)
	ウミニナ	ウミニナ科	準絶滅危惧 (NT)
	アカテガニ (※)	イワガニ科	準絶滅危惧 (NT)
	ヒトハリザトウムシ (※)	カワザトウムシ科	準絶滅危惧 (NT)
	タワヤモリ (※)	ヤモリ科	準絶滅危惧 (NT)
	サンコウチョウ	カササギヒタキ科	準絶滅危惧 (NT)
植物	マツバラ	マツバラ科	絶滅危惧1A類 (CR)
	タチハコバ	ナデシコ科	絶滅危惧1A類 (CR)
	アカハナワラビ	ハナヤスリ科	絶滅危惧1B類 (EN)
	エダウチホングウシダ	ホングウシダ科	絶滅危惧1B類 (EN)
	エビガラシダ	ミスワラビ科	絶滅危惧1B類 (EN)
	チョウジガマズミ	シカズラ科	絶滅危惧1B類 (EN)
	ウキヤガラ	カヤツリグサ科	絶滅危惧1B類 (EN)
	デンジソウ	デンジソウ科	絶滅危惧1B類 (EN)
	シマキケマン	ケシ科	絶滅危惧1B類 (EN)
	ヒメウラジロ	ミスワラビ科	絶滅危惧2類 (VU)
	イヌノフグリ	ゴマノハグサ科	絶滅危惧2類 (VU)
	キドイノモトソウ	イノモトソウ科	絶滅危惧2類 (VU)
	ホウライカズラ	マチン科	絶滅危惧2類 (VU)
	ハツカニガキ	アカネ科	絶滅危惧2類 (VU)
	ツシマママコナ (※)	ゴマノハグサ科	絶滅危惧2類 (VU)
	ツクシタンポポ	キク科	絶滅危惧2類 (VU)
	オニツルボ	ユリ科	絶滅危惧2類 (VU)
	ヒメナベワリ	ビャクブ科	絶滅危惧2類 (VU)
	シモツケヌリトラノオ	チャセンシダ科	絶滅危惧2類 (VU)
	キミズ	イラクサ科	絶滅危惧2類 (VU)
	トサムラサキ	クマツヅラ科	絶滅危惧2類 (VU)
	フトヒルムシロ	ヒルムシロ科	準絶滅危惧 (NT)
	ヒメアオスゲ	カヤツリグサ科	準絶滅危惧 (NT)

※ P.62・P.73 に写真掲載

資料 愛媛県レッドデータブック

## 社会経済環境

### (1) 人口

八幡浜市の人口は、平成 22 年 10 月に実施された国勢調査によると 38,370 人（男 17,766 人・女 20,604 人）で、全国第 658 位、愛媛県内第 9 位となっています。しかし、昭和 30 年の 71,987 人（旧八幡浜市・旧保内町を合算）をピークに減少傾向が続いています。

八幡浜市の 65 歳以上の高齢者の人口割合は、平成 22 年時点で 32.8%であり、全国割合 23.0%、愛媛県割合 26.6%を大きく上回る高齢化社会となっています。

一方、世帯数は 15,849 世帯で、昭和 60 年をピークに平成に移り減少傾向にあります。一世帯あたり人員は、昭和 30 年の 4.81 人から平成 22 年には 2.42 人となっており、核家族化及び単身世帯の増加の傾向が見られます。

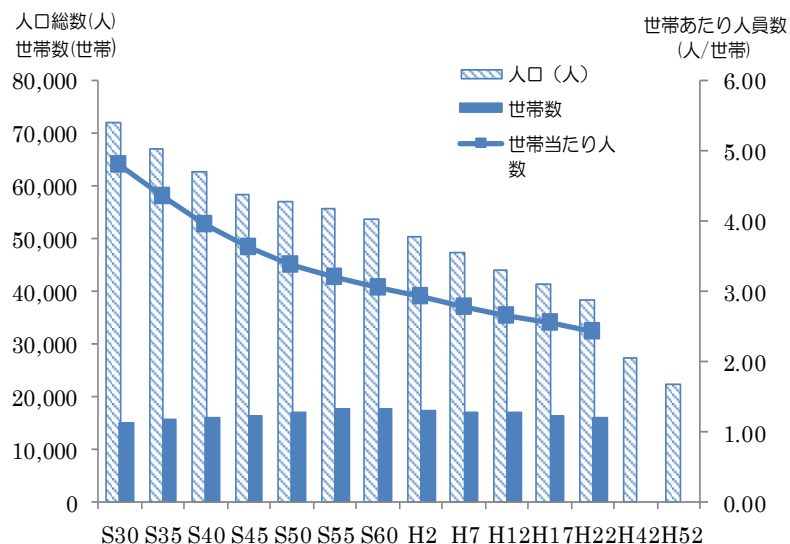
また、65 歳以上の高齢親族がいる世帯数は、8,116 世帯で、平成 17 年の 7,935 世帯と比べると増加傾向にあります。そのうち、高齢夫婦世帯（夫 65 歳以上・妻 60 歳以上）は、2,355 世帯(H22)と 2,271 世帯(H17)、高齢単身世帯(65 歳以上)は、2,462 世帯(H22)と 2,294 世帯(H17)となっており、高齢者のみの世帯が増加しています。

人口及び世帯推移（旧八幡浜市・旧保内町合算）

		人口（人）	人口増減（人）	世帯数	世帯当たり 人数
1955	S30	71,987		14,958	4.81
1960	S35	67,173	△ 4,814	15,415	4.36
1965	S40	62,715	△ 4,458	15,837	3.96
1970	S45	58,545	△ 4,170	16,158	3.62
1975	S50	56,964	△ 1,581	16,841	3.38
1980	S55	55,757	△ 1,207	17,478	3.19
1985	S60	53,622	△ 2,135	17,539	3.06
1990	H2	50,271	△ 3,351	17,141	2.93
1995	H7	47,410	△ 2,861	17,067	2.78
2000	H12	44,206	△ 3,204	16,755	2.64
2005	H17	41,264	△ 2,942	16,273	2.54
2010	H22	38,370	△ 2,894	15,849	2.42
2030	H42	27,388	△ 10,982	—	—
2040	H52	22,438	△ 4,950	—	—

資料 国勢調査

H42・H52 の推計は、国立社会保障・人口問題研究所による



## (2) 土地利用

土地利用については、自然的、社会的、経済的及び文化的な諸条件に十分配慮し、市街地と農地、森林など自然的土地利用との調和を図りながら、適正かつ合理的な土地利用に努めなければなりません。

八幡浜市の土地利用面積を見ると、その他部分（道路・河川など）を除くと、山林・原野が 40.56 km<sup>2</sup>（30.49%）と最も多く、これに農地（田・畑）の 32.26 km<sup>2</sup>（24.25%）を加えた緑地の面積は、72.82 km<sup>2</sup>（54.74%）となり、市域の半分以上が緑地で覆われています。

土地利用の推移を見ると、平成 20 年から平成 24 年までの 5 年間に、宅地は△0.07 km<sup>2</sup>の微減となっています。一方、農地（田・畑）及び山林・原野についても、△0.36 km<sup>2</sup>と微減しています。農地の多くは果樹園で形成されていますが、斜面地のかんきつ類を主とする樹園地が占めているため、都市的土地利用や水田農業に適した平坦地が乏しい状況にあります。

今後、農地や山林においては、多様な環境保全機能に配慮した土地利用・整備計画を立て、市街地においては環境と調和した土地利用を推進し環境負荷の低減と快適な環境の創造に努めることが望まれます。

土地利用状況 (平成 24 年 1 月 1 日 現在)

区分	面積 (km <sup>2</sup> )	構成比 (%)
農地 (田・畑)	32.26	24.25
宅地	5.00	3.76
池沼	0.02	0.01
山林・原野	40.56	30.49
雑種地	1.38	1.04
その他	53.81	40.45
合計	133.03	100.00

資料：固定資産税概要調書

### (3) 産業

#### (1) 就業構造

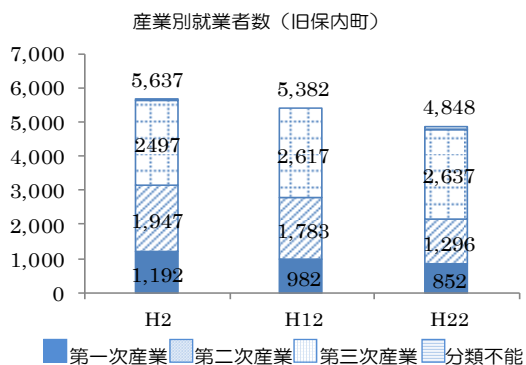
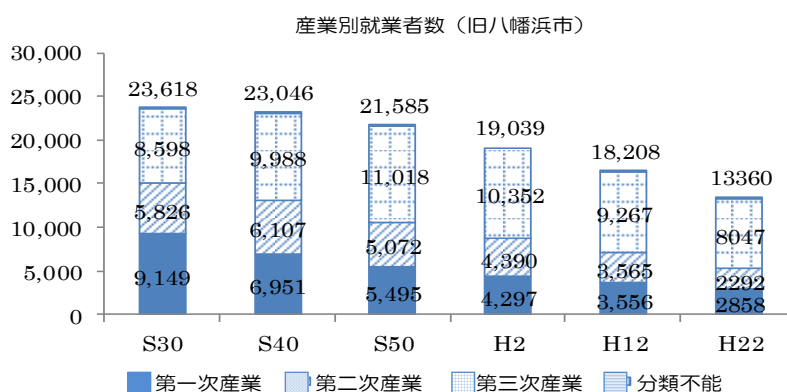
八幡浜市の就業者数は 18,208 人（国勢調査：平成 22 年 10 月 1 日現在）で、全国的な少子高齢化の進展による市の人口の減少とともに、減少を続けています。

産業別就業者数を見た場合、どの産業も減少が続いており、その伸び率は△26.2%となっています。また、就業者比率では、第 3 次産業が増加の傾向にあります。

産業別就業者数

年次	S30	S40	S50	H2			H12			H22		
	旧八幡浜			計	旧八幡浜	旧保内	計	旧八幡浜	旧保内	計	旧八幡浜	旧保内
総数	23,618	23,046	21,585	24,676	19,039	5,637	21,778	16,396	5,382	18,208	13,360	4,848
	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
第一次産業	9,194	6,951	5,495	5,489	4,297	1,192	4,538	3,556	982	3,710	2,858	852
	38.9%	30.2%	25.5%	22.2%	22.6%	21.1%	20.8%	21.7%	18.2%	20.4%	21.4%	17.6%
第二次産業	5,826	6,107	5,072	6,337	4,390	1,947	5,348	3,565	1,783	3,588	2,292	1,296
	24.7%	26.5%	23.5%	25.7%	23.1%	34.5%	24.6%	21.7%	33.1%	19.7%	17.2%	26.7%
第三次産業	8,598	9,988	11,018	12,849	10,352	2,497	11,884	9,267	2,617	10,684	8,047	2,637
	36.4%	43.3%	51.0%	52.1%	54.4%	44.3%	54.6%	56.5%	48.6%	58.7%	60.2%	54.4%
分類不能	1	18	36	1	0	1	8	8	0	226	163	63
	0.0%	0.1%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	1.2%	1.3%

資料：国勢調査

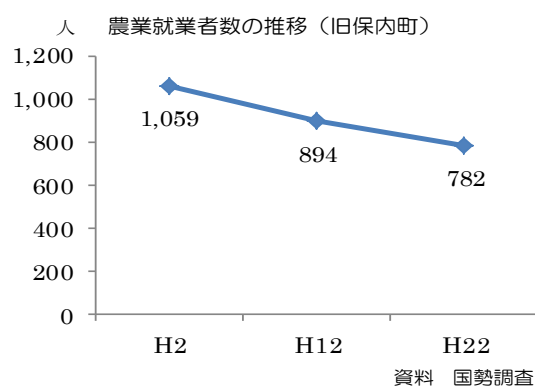
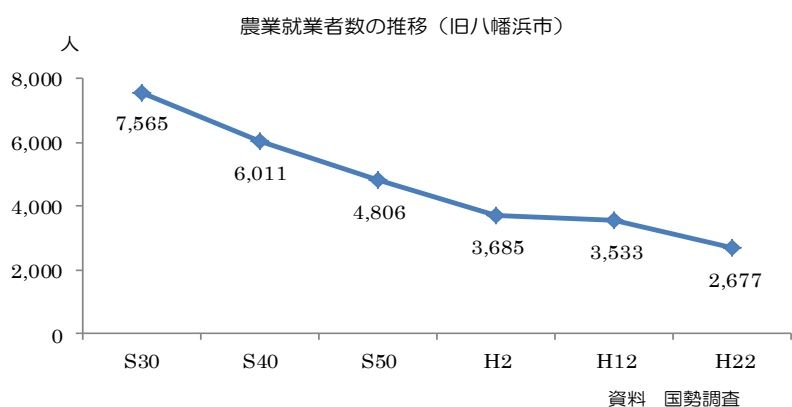




(2)農業

平成22年の国勢調査による農業就業者数は、3,459人であり、減少傾向にあります。農業従事者の高齢化及び後継者不足を反映し、農家戸数・農業従事者・経営耕地面積の減少が続いています。今後は、生産物の付加価値化にもつなげる農薬使用の削減など、「人と環境にやさしい農業」の実現に向けた取り組みを推進することが必要です。

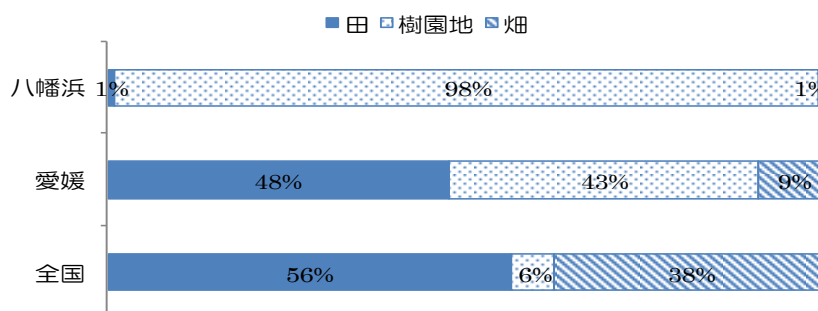
2010年（平成22年）世界農林業センサスによると、八幡浜市における経営耕地の98%が樹園地であり、田・畑はそれぞれ1%にすぎないことがわかります。これは、愛媛県及び全国の経営耕地の比率と比べて明らかな違いを示す大きな特徴となっています。



経営耕地の状況（H22）

	(ha)			
	田	樹園地	畑	合計
八幡浜	27	2,575	21	2,623
愛媛	16,823	15,221	3,339	35,383
全国	2,046,267	213,797	1,371,521	3,631,585

資料 2010 世界農林業センサス

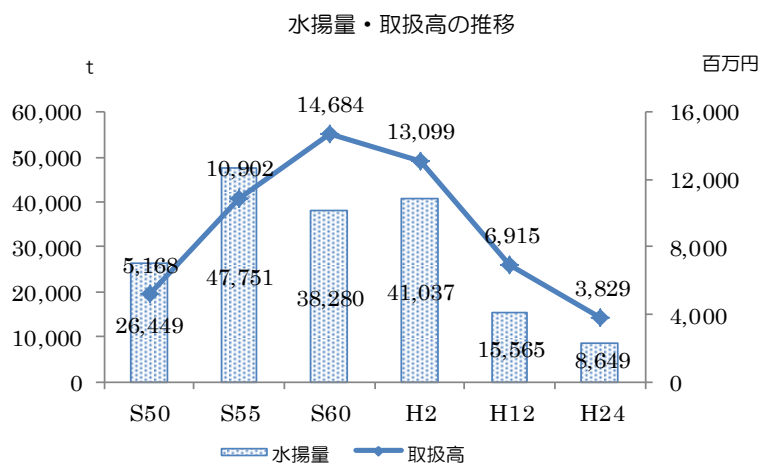


### (3)水産業

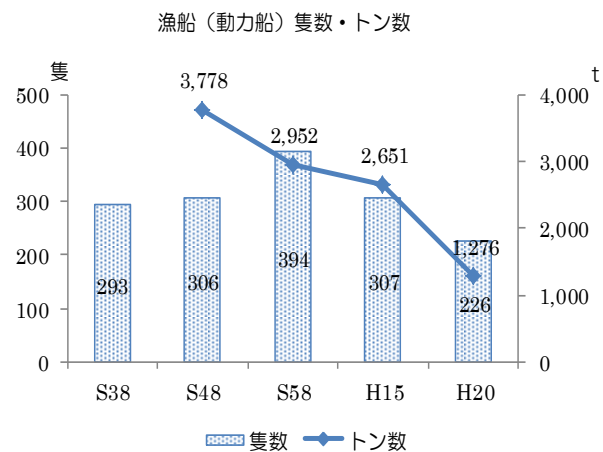
平成 24 年度の八幡浜市水産物地方卸売市場の水揚量は 8,649t、取扱高は 3,829,021 千円であり、減少傾向にあります。

八幡浜市の漁業は、底引き網漁、刺網漁を中心に展開されており、以前は沖合底引き網漁による漁獲量が多くを占めていましたが、近年は資源の枯渇などによる不漁が続き水揚量が低迷している状況が続いています。

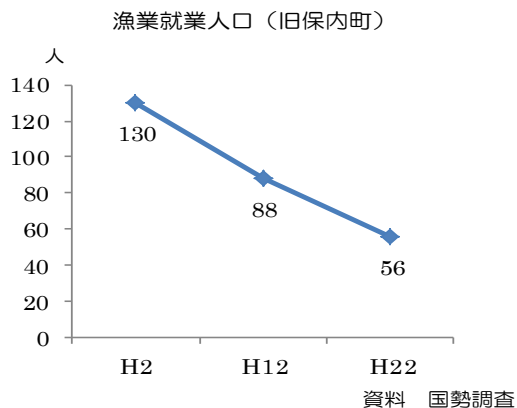
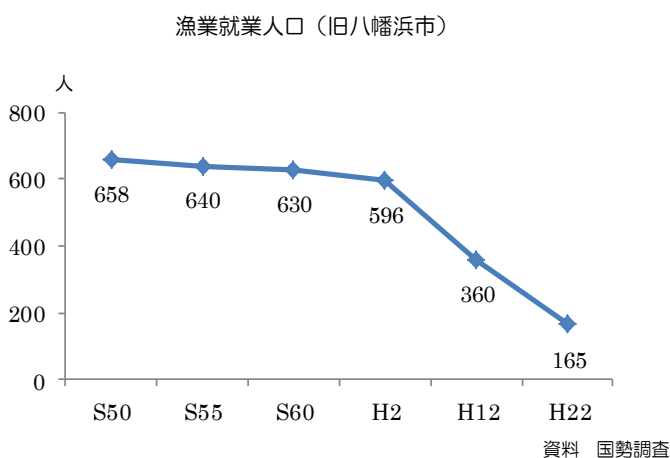
しかし、平成 24 年度末には、高度衛生管理型の水産物地方卸売市場が完成し、今後、品質・衛生管理の高度化を図ることにより取扱高の回復が期待できます。



資料 八幡浜市統計情報  
八幡浜市水産振興基本計画



資料 愛媛県統計情報データベース

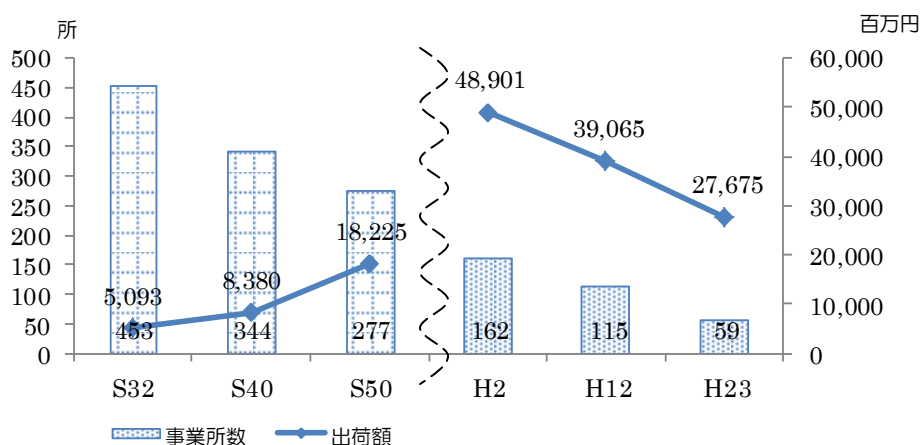


(4)製造業

八幡浜市の平成23年度の製造業事業所（従業員4人以上）数は59事業所、製造品出荷額は約276億円、従業員は1,902人となっています。

近年は、いずれも減少傾向が続いています。

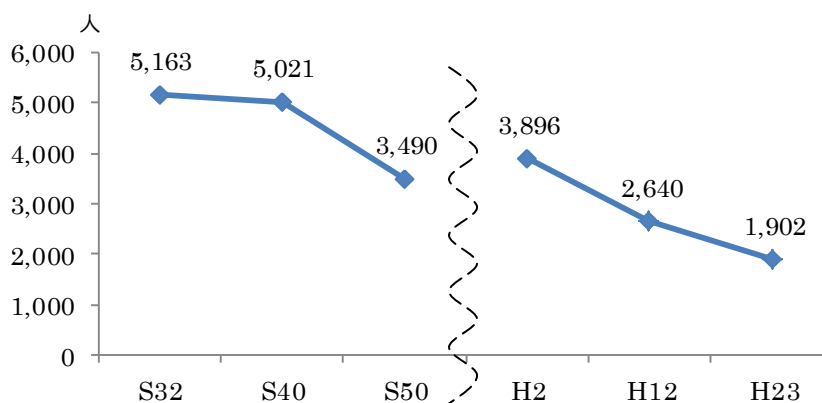
製造業事業所数（従業員4人以上）・出荷額の推移



資料 工業統計調査

※S32・S40・S50は、旧八幡浜市のデータ。  
H2以降は、旧八幡浜・旧保内を合算したデータ。

製造業従業者数の推移



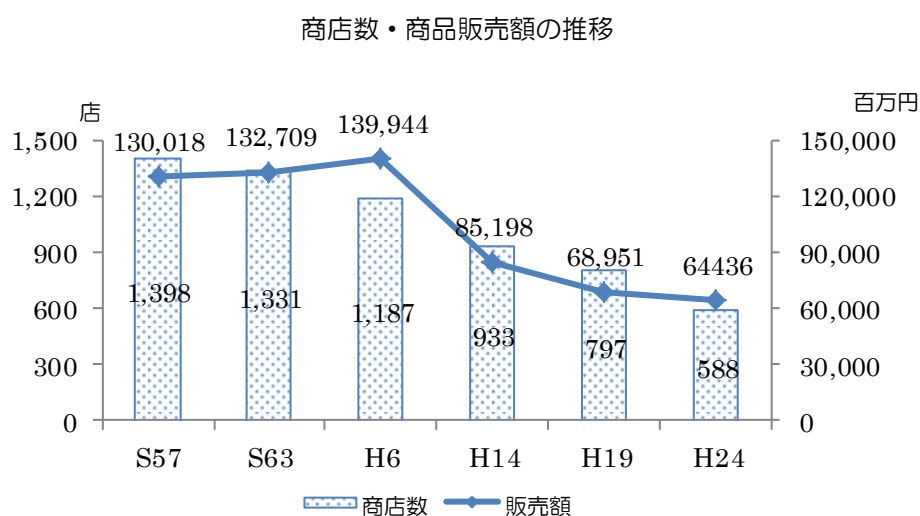
資料 工業統計調査

※S32・S40・S50は、旧八幡浜市のデータ。  
H2以降は、旧八幡浜・旧保内を合算したデータ。

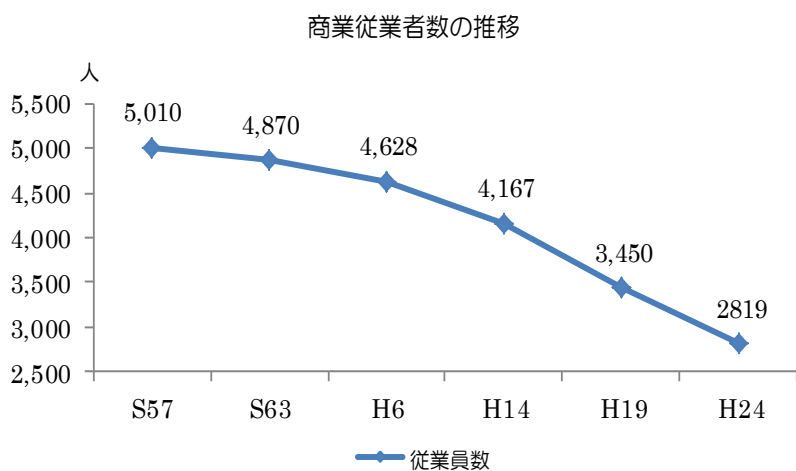
### (5)商業

八幡浜市の平成 24 年度の商店数は、588 店舗で、商品販売額は約 644 億円、従業員は 2,819 人となっています。

近年は、商店数、従業員数ともに減少傾向にあります。



資料 商業統計調査  
H24経済センサス



資料 商業統計調査  
H24経済センサス

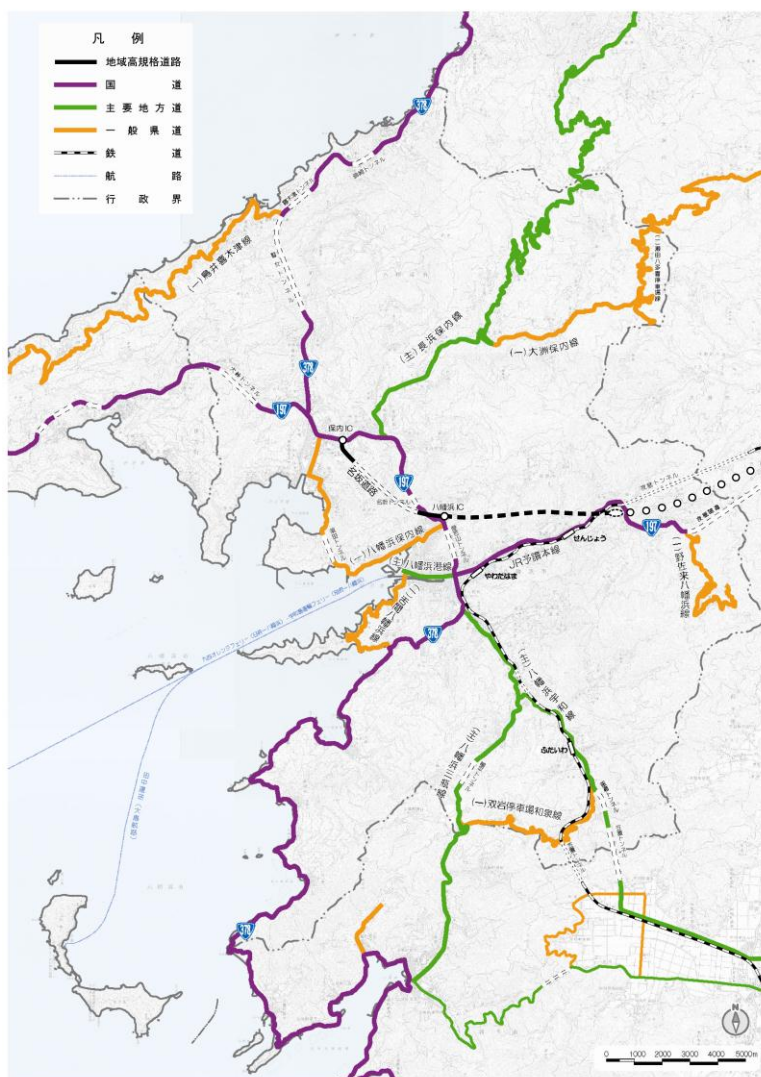
(4) 交通

(1)概況

八幡浜市は、四国の西の玄関口といわれ、四国と九州を結ぶ海上交通の拠点となっており、全線開通が間近に迫っている東九州自動車道と航路および地域高規格道路を経て四国8の字ネットワークへと結ばれるルートは、東九州地区と京阪神地区を結ぶ最短ルートとなり、地域間の交流を通じて西日本における広域経済文化圏の形成をめざす太平洋新国土軸（第二国土軸）として機能することが期待されています。

また、市内には国道197号と378号の2本の国道が走り、これらを幹線軸として隣接の市町とつながっています。市内では、交通が集中するため渋滞が発生することが多く、これを解消するため、四国8の字ネットワークと大洲市北只で接続する地域高規格道路「大洲・八幡浜自動車道」の「名坂道路」が平成25年3月に開通し、その先線である「八幡浜道路」および「夜屋道路」も整備が進んでいます。

また、JR予讃線が市内を走り、千丈駅・八幡浜駅・双岩駅の3駅があり、通勤や通学、観光などに利用されています。



## (2)自動車

八幡浜市の平成 23 年度の自動車保有台数（125cc 以上の二輪車を含む）は、25,261 台であり、近年は、若干の減少傾向にあります。

内訳をみると、貨物車が平成 2 年から約 31%減少していますが乗用車は増加しており、人口が減少していることを考えると、一人あたりの乗用車保有台数は増加していると推測されます。

八幡浜市車種別自動車保有台数の推移

(台)

	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H24
貨物車	8,865	10,510	10,282	9,270	8,098	7,369	7,165
乗合自動車	109	107	115	112	111	114	116
乗用車	8,104	9,193	12,000	14,843	16,418	16,627	16,678
特種（殊）自動車	374	418	524	606	628	569	569
二輪車	501	775	818	876	825	815	789
合計	17,953	21,003	23,739	25,707	26,080	25,494	25,317

資料：愛媛県統計情報データベース

## (3)鉄道

平成 22 年度の JR 八幡浜駅の旅客乗車人数は、358,488 人です。内訳をみると、普通旅客、定期旅客ともに減少傾向にありますが、普通旅客の減少幅が大きいようです。

公共交通機関の利用者は減少傾向にあり、交通手段が公共交通機関から自動車に移行していることがうかがえます。

JR 八幡浜駅旅客乗車人数の推移

(人)

	S30	S40	S50	H12	H17	H22
普通旅客	561,169	758,910	530,827	249,891	184,768	149,257
定期旅客	148,443	432,061	164,468	205,093	232,547	209,231
合計	709,612	1,190,971	695,295	454,984	417,315	358,488

資料：愛媛県統計情報データベース

## 第2章

### (4)船舶

平成 22 年度に八幡浜港および川之石港に入港した船舶は、合計 10,530 隻、総トン数は、18,405 千 t となっています。入港船舶の隻数は減少していますが、総トン数は増加しています。

八幡浜港入港船舶の隻数・総トン数の推移

(隻・千 t)

	S30	S40	S50	H10	H20	H22
入港船舶隻数	26,881	28,749	47,130	14,131	11,422	10,382
入港船舶総トン数	1,523	2,195	7,789	13,599	16,762	18,314

川之石港	S30	S40	S50	H10	H20	H22
入港船舶隻数	8,470	5,875	5,667	85	169	148
入港船舶総トン数	421	636	532	39	222	91

資料：愛媛県統計情報データベース

平成 22 年度に八幡浜港で乗降した人員は、419,203 人、車両台数は 300,500 台となっています。乗降人員、車両台数ともに減少傾向にあります。

八幡浜港入港の乗降人員・乗降車両数の推移

(人・台)

	S30	S40	S50	H10	H20	H22
乗降人員総数	1,090,266	996,920	1,265,852	415,810	448,170	419,203
乗降台数	—	—	—	343,279	321,003	300,500

資料：愛媛県統計情報データベース

## (5) 資源・エネルギー

### (1) 水資源

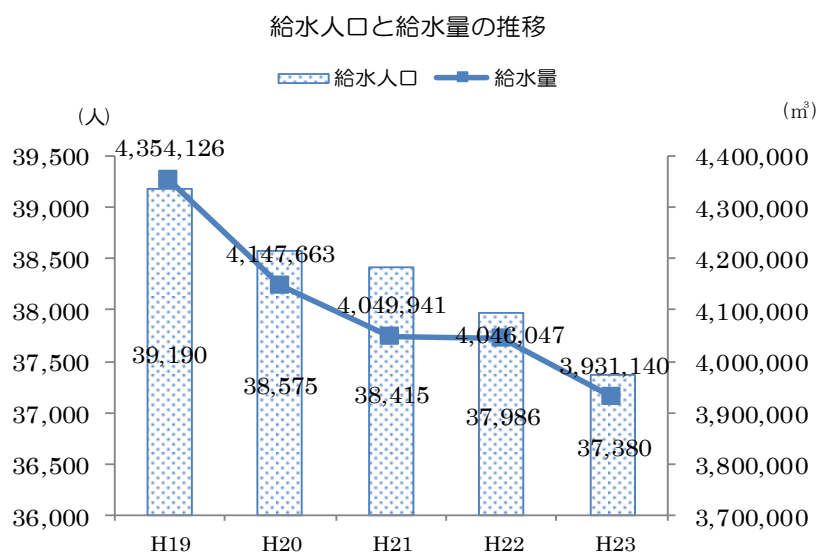
八幡浜市の給水人口および給水量は、減少傾向が続いています。水源は、地下水を取水するものが多く、表流水と比べて天候や季節に左右されることなく、安定した水量の確保ができます。しかし、既存水源の中には取水能力が低下し、補助水源の開発などにより取水量を確保している水源もあります。

水質基準の適合状況については、毎年水質検査計画を策定し、水道水が水質基準に適合していることを確認するために、市内の13ヶ所の給水栓で定期的に水質検査を行っています。現在、全ての水質項目で水質基準に適合しており、安全な水を給水していますが、今後も一層の水質管理を強化していく必要があります。

八幡浜市を中心にした沿岸部は、柑橘類の産地として全国的に名高い地域ですが、以前は、慢性的な水不足に悩まされていました。度々干ばつに見舞われ甚大な被害を被っており、安定的な農業用水の供給が強く望まれていました。

この水不足を解消するため、国営灌漑排水事業 南予用水地区（昭和47年着手～平成8年完了）として、樹園地に農業用水を配水するための幹線および支線水路などの新設、ならびに農業用水の水源を野村ダムとするための取水施設が整備されました。

事業の完了により樹園地への安定的な水供給が確保されるようになると、スプリンクラーの共同活用による防除・灌水がなされ、農作業の省力化が図られるとともに天候に左右されない安定的な柑橘栽培に役立っています。



資料 八幡浜市統計情報



(2)エネルギー

エネルギーは、私たちの生活においてなくてはならないものとなっていますが、主要なエネルギー源を石油などの化石燃料に依存しており、燃焼により温室効果ガスを発生させ、地球温暖化の環境問題を引き起こしています。

エネルギー使用量において最も大きい電力消費量は、経年的に見た場合、増減を繰り返しほぼ横ばい状態ですが、その内訳を見ると、産業部門・民生家庭部門は減少傾向にある一方、民生業務部門が増加傾向にあります。

四国の発受電電力量構成比は、平成22年度は、原子力約43%・火力（石炭・石油・天然ガス）約47%と原子力と火力がほぼ同程度となっていました。平成24年度には、火力（石炭・石油・天然ガス）のみで約86%を担っています。

また、電力消費量とともに地球温暖化の要因となる二酸化炭素の排出に影響しているガソリンなどの自動車用燃料の消費については、エコドライブの実践、エコ自動車の普及などに取り組み、消費量を削減していくことが必要です。

